

城と史蹟を歩く会 第13回「牛込見附と後楽園周辺を歩く」ご案内資料

<日時> 平成14年6月6日(木曜日) 9時50分～16時30分ころ

<主要行程> 八幡宿8時10分乗車 — 千葉29分着、48分発(②番線総武各駅) 飯田橋
 9時48分着開会式 — 牛込見附、外堀、土塁 — 神楽坂、毘沙門天 — 筑土八幡宮
 — 小石川後楽園(昼食) — 牛天神 — 安藤坂 — 伝通院 — 大黒天 — 春日通り
 — 礒川公園、春日局像 — 後楽園、東京ドーム — 水道橋16時30分ころ乗車
 (総武各駅) 千葉経由、八幡宿18時ころ着

山岸 弘明

1) はじめに (地名のおこり)

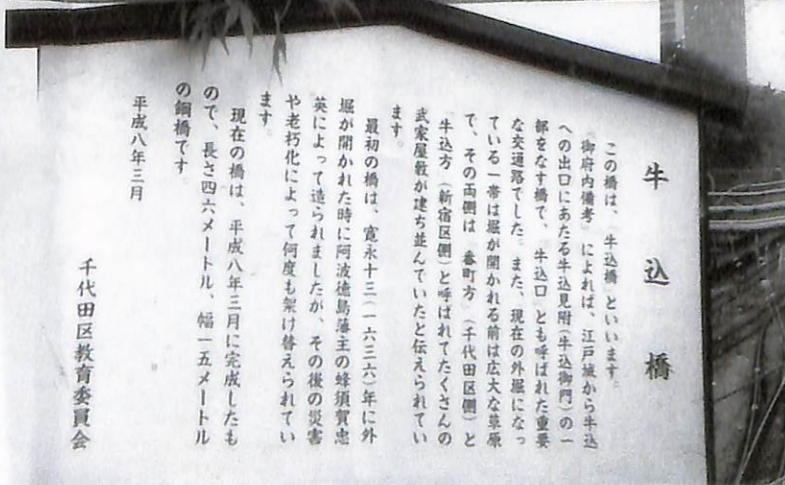
- ①飯田(橋) = 地元の飯田喜兵衛が家康の江戸入府時に案内役を勤めた
- ②牛込 = 武蔵野の牧名。牛を飼育した所
- ③神楽坂 = 祭礼のとき神楽を奉納
- ④小石(礒)川 = 本郷台と大塚台の間を流れる小石の多い谷川
- ⑤水道橋 = 神田川の上を渡らせた神田上水の懸樋(橋)

2) 牛込見附と外堀、土塁

- ①外堀 = JR中央線の御茶の水、水道橋、飯田橋、市ヶ谷、四谷間は旧江戸城外堀跡を利用。皇居側は城内、大名屋敷、旗本屋敷で、外側は城外、武家地と町人町になる。
- ②飯田橋駅 = 外堀跡、牛込御門に隣接、駅前面の外堀はセントラルプラザ建設で消滅した。
- ③牛込見附 = 牛込、神楽坂と城内番町、九段を結ぶ江戸城外郭門。升形門垣の一部が現存する。
 寛永13年蜂須賀忠英建造。遺構に創建者(松平)阿波守銘を刻む
 升形門垣遺構 = 高麗門、内升形右折れ、渡櫓門、大番所。当時の模様を史蹟パネルの古写真で偲ぶ
- ④御門警備 = 3千石以上の大身旗本が3か年交代。番士3名ほか(計20~30名くらい?)、鉄砲5、弓3、長柄5、持筒2、持弓1常備
- ⑤牛込橋 = 旧橋台。ボート浮かぶ市ヶ谷側とセントラルプラザ側が石堤(橋台)で堰き止められ、木橋からオーバーフローした濠水が次の濠に進んだ。外堀の仕組みがわかりやすい。
- ⑥外堀と土塁 = 寛永11~13年、3代将軍家光が江戸城の総仕上げ工事として江戸城を取り囲む外郭として構築。市ヶ谷、牛込橋間は2番組、上杉定勝、松平光重、仙石政俊、松平忠憲、水谷勝隆が担当、濠幅44間4尺(80m)、深さ3間3尺(6m)という。土塁は堀削土を盛り上げたもので高さ水面およそ20m、上部幅およそ10m、水叩き(水面下の石垣)、叩き土居、当初白壁を回したが享保以降松に改めた。



牛込御門の
土塁(左)と現況



牛込橋
 この橋は、牛込橋といわれます。
 御府内備考によれば、江戸城から牛込への出口にあたる牛込見附(牛込御門)の一帯をなす橋で、牛込口とも呼ばれた重要な交通路でした。また、現在の外堀になった一帯は堀が開かれる前は広大な草原で、その西側は番町(千代田区)と牛込(新宿区)と呼ばれてたたくさんの武家屋敷が建ち並んでいたと伝えられています。
 最初の橋は、寛永十三(一六三六)年に外堀が開かれた時に阿波徳島藩主の蜂須賀忠英によって造られました。その後、その後の災害や老朽化によって何度も架け替えられています。
 現在の橋は、平成八年三月に完成したもので、長さ四六メートル、幅一五メートルの鋼橋です。
 平成八年三月
 千代田区教育委員会

3) 神楽坂

- ①江戸時代は武家地で一部に町家も混在。維新後毘沙門天縁日、夜店で賑わう。また、江戸時代後期から岡場所がありこれが明治に花街へと発展した。現在も料亭、老舗とカラオケ、ディスコ……、新旧の顔が入り交る不思議な町。
- ②神楽坂碑 = 江戸時代の牛込御門から神楽坂を描く。変貌した町並みも地形は変わらない。
- ③芸者小路 = 細い路地が交錯する裏道、高級料亭が並び、いまにも三味線の音が聞こえそう。
 神楽坂見番 = 神楽坂芸者衆の本拠、見番と神楽坂芸者衆の信仰を集めた稲荷社。
- ④本多小路 = 旗本本多対馬守家上屋敷跡。膳所7万石藩祖本多康俊の2男忠相からはじまる。関が原の戦功など8千石をえ、後代に大名いま一步の9千石に伸ばした。3,401坪。

4) 善国寺(毘沙門天)

- ①神楽坂中心の寺。
- ②毘沙門信仰のメッカ。本堂は戦災焼失、鉄筋コンクリートで再建された。

5) 筑土八幡宮

- ①千年余の昔、老翁が霊夢を感じて創建。中世、上杉氏が江戸城の産土神として勧請。一帯は牛込城支城で筑土城、西隣は3代将軍家光の御殿跡ともいうが明確ではない。
- ②石造鳥居 = 享保12年、従四位下行豊前守丹治直邦(久留里城主黒田直邦) 寄進
- ③庚申塔 = 日月、めずらしい2猿。雌雄猿が桃の実を食べている。

6) 神田川と外堀

- ①東京のほぼ中心部を縦断する川。はじめ平川寄りを流れたが外堀工事のため迂回、万治3年、伊達家に通航のため開削させた。仙台堀とも。川名は神田山を切り開いて通した、神田を通ったなど。
- ②外堀は船河原橋まで。ここで神田川に合流する。外堀は神田川、隅田川をへて江戸湾へ。合流地の飯田橋駅陸橋周辺は最近まで洪水被害が多く、護岸工事のため当時の面影はない。



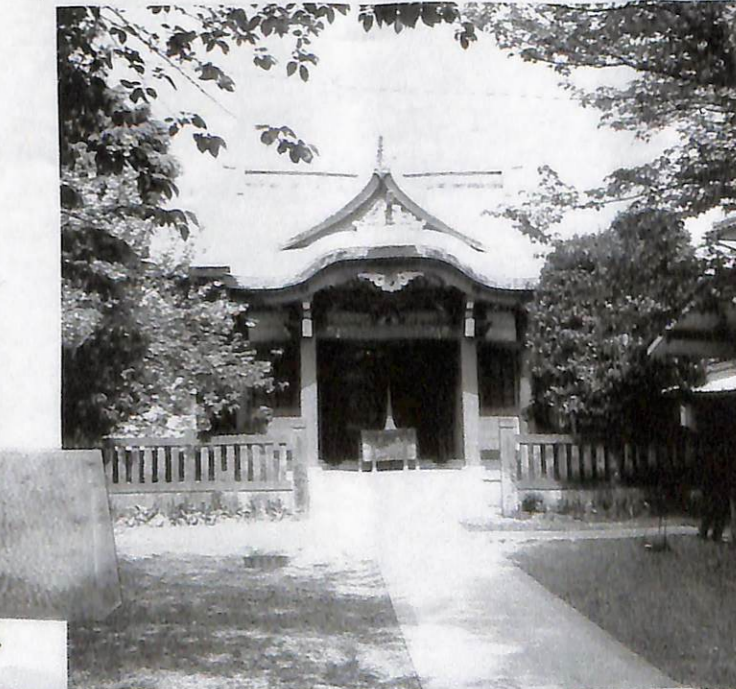
神楽坂↑見番↓



筑土八幡宮↓ ↑善国寺



猿庚申塔



7) 小石川後楽園 (団体250円、65才以上150円=昼食)

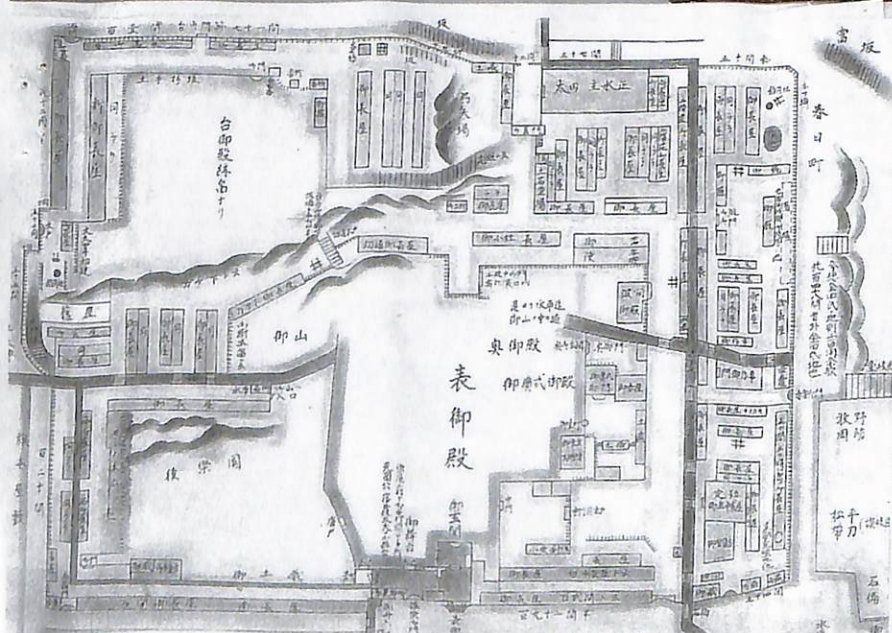
- ①水戸徳川家上屋敷=御三家水戸徳川家上屋敷。現在の後楽園遊園地、東京ドーム、小石川後楽園、中央大学、戦没者霊園、礪川公園一帯およそ10万坪。寛永6年家光から初代頼房が拝領。桃山殿舎を連ねたが配置図などは残っていない。およそ4分の1庭園部分2万5千坪が現存している。
- ②小石川後楽園=頼房が造り、光圀が完成させた江戸初期の代表的回遊式築山泉水庭園。
- ③命名=中国の「岳陽楼記」にある「土は天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに遅れて楽しむ」から光圀が名付けた。
- ④文学趣味、中国趣味、各地の名勝などを取り入れている。
- ⑤その構成を見学コースで大別すると
中央部=大きな池を中心とした回遊式泉水庭園
東側=水戸屋敷の内苑部。書院の庭
西側=中国趣味の西湖の堤や円月橋
北側(時間の都合で省略)=田園風。松林、梅林、たんぼ、菖蒲田となる。
本来は正門(閉鎖中)から東側の内苑部、唐門を抜け中央部大泉水にできるように設計されている。
- ⑥水源=かつて神田上水を引いたが現在は井戸水。
- ⑦みどころ(ご案内の中で解説します)
大泉水、逢菜島、徳太寺島、白糸の滝と沢わたり、内庭、唐門跡、小石山、渡月橋、西湖堤、大い川と沢渡り、通天橋、得仁堂、円月橋

8) 後楽園築地塀

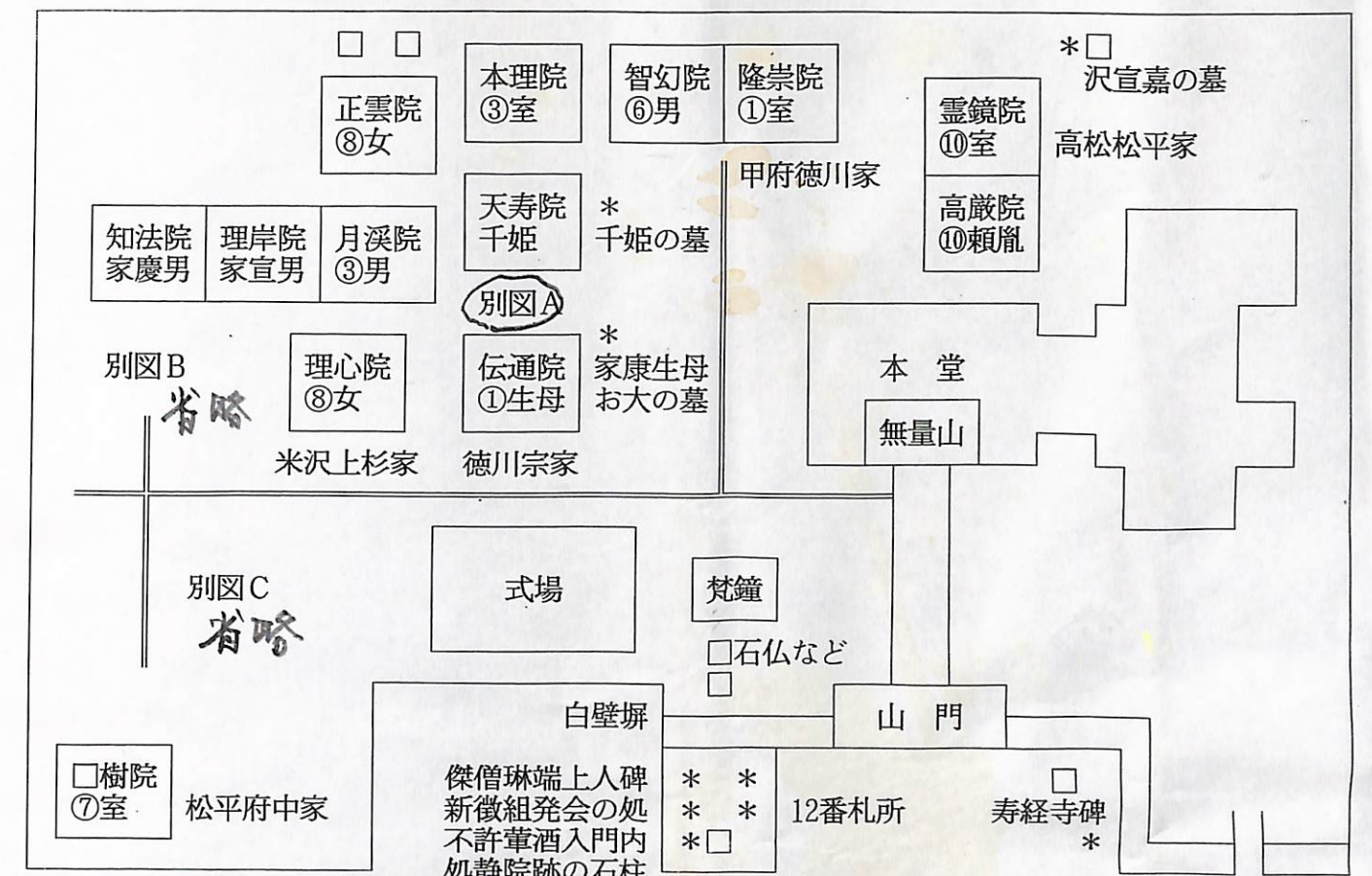
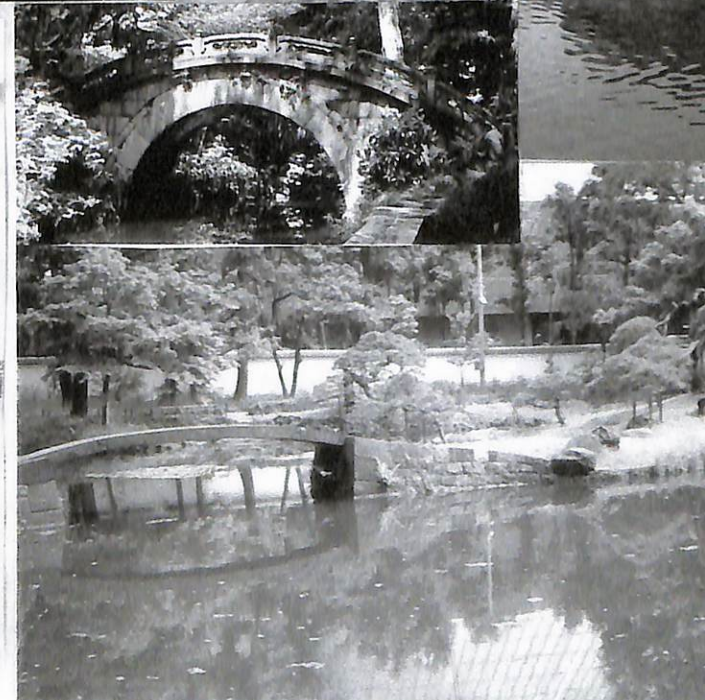
- ①江戸城鍛冶橋御門旧石垣を利用(移築保存)
- ②矢、せり金、げんのうで加工
刻印=丸に山マークは備中成羽山崎家



小石川後楽園



水戸徳川家上屋敷御門跡



平成12年調べ

主要墓碑

- 徳川宗家
 - ①家康生母水野忠政娘大=伝通院殿普智香大禪定尼(宝きょう石壇上およそ4.5m=慶長7年)
 - ①" 側室長谷川藤直娘奈津=清雲院殿心普光質大禪定尼(〃 3m=万治3年)
 - ②秀忠長女千姫(豊臣秀頼、本多忠刻室)=天樹院殿崇源法松山大禪定尼(五輪塔5.5m=寛文6年)
 - ③家光室鷹司信房娘孝子=本理院殿照誉円光徹心大禪定尼(〃 =延宝2年)
 - ③" 2男龜松=月溪院殿華屋尊英(宝きょうおよそ4.5m=正保4年)
 - ④家宣2男家千代=智幻院殿露月涼華大童子(〃 5m=宝永4年)
 - ⑥" 3男大五郎=理岸院殿月光秋華大童子(〃 4m=宝永7年)
 - ⑧吉宗側室稲葉定清娘久逸=教樹院殿曜普光託智仙大法尼(位牌型=安永6年)
- 甲府徳川家
 - ①綱重室二條光平娘=隆崇院殿理廓良智大禪定尼(五輪塔およそ5m=寛文9年)
- 田安徳川家
 - ①宗武側室=慧学院殿真普智薫誠円大姉(五輪塔=宝曆9年)
- 高松松平家
 - ⑩頼胤=高巖院殿卓蓮立普善得源端大居士(長形=明治10年)
 - ⑩" 室徳川家斉16女結子=霊鏡院殿円普照慧高太姉(五輪塔=天保8年)
- 会津松平家
 - ⑦容衆室徳川家斉15女幸子=貞鑑院殿性普円明浄覚太姉(宝きょう=文政4年)
- 丸龜京極家
 - ②忠高室徳川秀忠4女初姫=興庵院殿豊普天清陽
- 大垣戸田家
 - ①氏鉄室戸田康長娘口=大督院殿心普寿米大禪定
- 米沢上杉家
 - ⑦宗房室松平義形娘=蓮胎院殿照普端光円明大師
 - ⑧重定室徳川宗勝娘=蔡香院殿薫普自性明心太姉
- 福山阿部家
 - ②重次室松平定勝娘=正寿院殿普光庵秋月大師
- 尼崎桜井家
 - ②忠慎室阿部重次娘=常照院殿心普清室光雲大師
- 府中松平家
 - ⑦頼前室徳川宗勝娘方子=樹院太夫人源氏墓(鎌倉松平家)
 - ②重忠=桐林院殿前刺史英普長安大居士、松平丹
 - ②" 室戸田忠次娘=長昌院殿華岳法春太姉(宝

K	J	I	H	G	F	E	D	B
A	感光院=⑩家斉女・ゆき姫							
B	玉照院=不詳							
C	春光院=⑩家斉男・富八郎							
D	惠涼院松平佐州利経							
E	慧学院太姉=不詳							
F	正徳院=⑩家斉男・陽七郎							
G	景徳院大童子=不詳							
H	影幻院=⑩家斉男・信之進							
I	容香院=⑩家斉女・寿姫							
J	真性院=⑩家斉側室・お梅							
K	専修院法尼俗名三笠							

伝通院 →

お大の墓(左)
千姫と七の墓(中右)



9) 北野神社 (牛天神)

- ① 頼朝伝説=石橋山の戦いに敗れ安房に逃れるとき、当時入江であったこの地に船を止めて休息。うたたねの夢枕に現れた菅原道真が吉兆を予言したという。平家追討なり一社を創建。
- ② 石段と梅=急坂下に江戸湾が迫った。天神様に梅が似合う。
- ③ 牛石=頼朝が目覚めたとき側にあった牛の形をした大石。なでるとご利益がある。
- ④ 天神様=学問の神様・菅原道真を奉る。
- ⑤ 中島歌子歌碑=雪中竹。雪のうちに 根ざしかためて若竹の 生ひ出むとしの 光をぞ思ふ
- ⑥ 牛坂=牛天神の坂。昔、頼朝が船を繋いだ老松が坂下にあった。

10) 安藤坂

- ① 江戸は坂々々。坂名は近くの大名屋敷名から取ることが多い。坂西にあった田辺、紀伊徳川家付家老安藤家藩3万8千石上屋敷に邸に由来。周辺は武家屋敷と町家が混在していた。
- ② 急坂は緩められたがきょう一番の難所。

11) 萩の舎跡

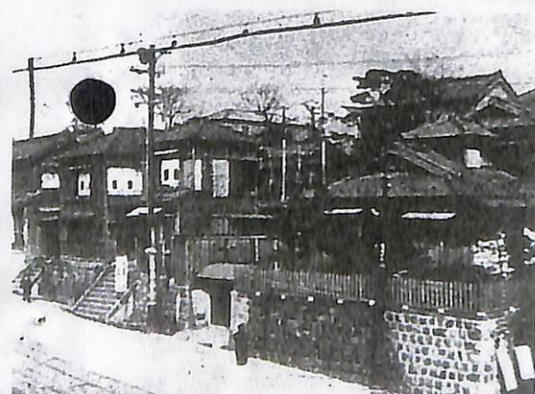
- ① 明治の代表的な女流歌人、中島歌子の歌塾跡。
- ② 歌子は夫が水戸藩士で天狗党に加わって戦死したため、実家の旅人宿池田屋に戻り、その隣に歌塾を開いた。中流家庭婦人を中心に門弟千人、樋口一葉も内弟子として寄宿した。

12) 伝通院

- ① 浄土宗。正式名は無量山伝通院寿経寺。伝通院は家康生母お大の院号。徳川将軍家菩提寺。お大、千姫など正室、側室、子女などの墓がある。将軍家の保護厚く寺領830石、関東檀林の上席として常時学僧千人が学んだ。敷地面積4万坪。
- ② 徳川家康生母お大(伝通院殿)=松平家に離別され、家康と3才で生き別れた大はのち家康の手厚い孝養を受ける。京都見物中の慶長7年、75才で逝去、遺骸は江戸に運んで大塚野で火葬、当地に埋葬して堂宇を建立した。
- ③ 千姫(天樹院殿)=秀忠長女。政略結婚で豊臣秀頼に嫁し、燃え盛る大坂城から脱出した。のち本多忠刻と再婚するが29才で死別、晩年を北の丸御殿で過ごす。悲劇のヒロイン。
- ④ 孝子(本理院殿)=家光正室だが性格不一致、北の丸に別居した。家光の女嫌いが一気に加速した。
- ⑤ 家宣長男(智幻院殿)=生後3か月、幻のごとく亡くなる。見上げる大宝きょう印塔。
- ⑥ 高松松平⑩頼胤夫妻=大きい方が室で将軍家斉の娘。嫁しても将軍の子、死後も差がつく。
- ⑦ このほか田安徳川家、会津松平家など巨大墓碑が林立する。

13) 処静院跡新選組結成の地

- ① 伝通院塔頭の一つ処静院の結界石。不許葦酒入門内(くんしゅもんないに在るをゆるさず)=匂いものを食べたり酒気を帯びて入ってはいけない
- ② 新選組結成の地=文久3年、新選組の前身浪士隊がここで結成された。会は清川八郎、山岡鉄舟が主催。近藤勇、土方歳三、沖田総司も隊員で参加、総勢250人が中山道を京都に上った。



←北野神社
牛石

↓処静院跡



永井荷風生育地
遠くS様
伝通院 (千姫墓)

←福聚院
7

14) 福聚院 (伝通院旧塔頭)

- ① 大黒天=商売繁盛、金運に恵まれる。大黒さまは古式で武装、珍しいお姿。厨子が開くのは60日に1回甲子の日、ほかの日は写真で。本物は写真の1.5倍ある。
- ② とうがらし地蔵=唐辛子のレイをつけたお地蔵さん。昔、ゼンソク持ちの老婆が医者への制止も聞かずに唐辛子を食べて続けて亡くなった。哀れんだ近所の人たちが地蔵を立て大好きだった唐辛子を供えた。セキ止めに効用があるという。

15) 富坂

- ① 富坂=元禄のころ、トビを取る役職の人たちが坂の周辺に小屋をかけて飼育した。トビがトミに。
- ② 文京の町=文京区は学問の町。東大、御茶の水女子大、東洋大、東京医科歯科大学など。中央大学=明治18年創立。法律の中央で有名だがここは工学部。
- ③ 都立戦没者霊園=太平洋戦争戦没者の霊を祀り、遺品を展示、収蔵している。

16) 春日通りと春日局像

- ① 春日通り=春日局の屋敷が置かれたのが地名に。
- ② 春日局=明智光秀の重臣で山崎の戦い後刑死した斉藤利光の娘。稲葉正成と結婚して3子の母。家光の乳母として江戸城に上がり、父母の情薄い幼い家光の親代わりとして養育、献身的に仕えた。家光が将軍となると大奥取締り、将軍相談役として影響力を發揮した。春日局の像=平成元年のNHK大河ドラマを記念して礪川公園に建立。主演は大原麗子。
- ③ 礪(こいし)川公園で小休息。
- ④ 目の前、巨大タワービルは文京区役所。展望室もあるが見上げるだけ。

17) 後楽園と東京ドーム

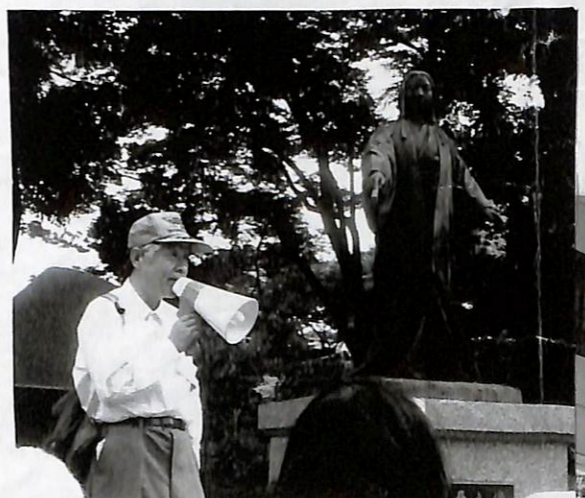
- ① 遊園地、東京ドーム、場外馬券売場、ボウリング場と一大観光地。
- ② 巨人のホームグラウンドを通り抜けてJR水道橋駅へ。

18) 水道橋駅(解散)

復路の購入切符=水道橋(820円)八幡宿
往路と逆方向で、総武各駅千葉経由、八幡宿18時ころ着予定



以上



←春日局像
↓東京ドーム

大正時代の
富坂周辺
↓



(現文京区役所)



第14回 8月11日(日曜日) 夏期研修会(資料代200円=予告編は発行しません)

13時30分~16時ころ、八幡公民館視聴覚室
① 市原を所領とした大名、旗本たち(仮題) 山岸弘明
近世市原の支配と領民の暮らし、所領とした大名、旗本たち。将軍家との血縁で成り上がる輩大名の陰に廃絶の悲運に涙する旗本たち。地頭たちの栄枯盛衰で江戸時代史を綴る。
② 藤田屋のみた幕末(仮題) 竹内 克
竹内講師の先祖は八幡宿の旅籠藤田屋。同家に伝わる旧幕府軍敗残兵遺品や菊間藩仮庁舎時代に拝領した水野家家紋彫刻などを紹介しながら、明治維新史の一側面を見据える。

7月は
お休み
です

城と史蹟を歩く会第13回「牛込御門と後楽園周辺を歩く」

ALBUM 平成14年6月6日=晴れ

主要ご案内コース

飯田橋駅、牛込見附と外堀、土塁、神楽坂、芸者小路、毘沙門天、本多小路、筑土八幡宮、水戸徳川家上屋敷跡、小石川後楽園、牛天神、荻の舎跡、安藤坂、伝通院、お大の墓、千姫の墓、処静院跡、新選組結成の地、福聚院、富坂、春日局像、文京シビックセンター、東京ドーム、水道橋駅(解散)

参加者40名(敬称省略=あいうえお順)

熱田百代、石井洋子、石原志津子、板垣てる、猪野春枝、今井典夫、今田喜夫、岩村ユウ、大谷安弘、荻田恵子、小野芳樹、加藤幸子、桑原絹枝、斉藤定子、渋谷奎吾、鈴木クニ子、鈴木洋子、鈴木よし子、鈴木さん、高沢 毅、高城正雄、高城富子、竹内 克、竹上茂、武見敏治、近久芳彦、千葉範子、伴野久美子、松川綾子、吉池一彦、吉池町子、吉水正子。世話人)山岸弘明、国分三男、小出惣治、高沢恒子、鷲津寛子、藪本ティ子

次回予告=7月は休会です

第14回=夏期講習会(8月11日13時30分=八幡公民館視聴覚室)予告編は発行しません。詳細は平成14年後半のスケジュールを参照ください。



後楽園



後楽園の記念写真



牛込見付 ↑ ↓



筑土八幡宮 ↓

神楽坂 ↑



本多横丁 →
神楽坂見番 ↓

東京ドーム →
伝通院 ↓
千姫の墓



城と史蹟を歩く会第13回「牛込御門と後楽園周辺を歩く」

ALBUM 平成14年6月6日=晴れ

主要ご案内コース

飯田橋駅、牛込見附と外堀、土塁、神楽坂、芸者小路、毘沙門天、本多小路、筑土八幡宮、水戸徳川家上屋敷跡、小石川後楽園、牛天神、荻の舎跡、安藤坂、伝通院、お大の墓、千姫の墓、処静院跡、新選組結成の地、福聚院、富坂、春日局像、文京シビックセンター、東京ドーム、水道橋駅(解散)

参加者40名(敬称省略=あいうえお順)

熱田百代、石井洋子、石原志津子、板垣てる、猪野春枝、今井典夫、今田喜夫、岩村ユウ、大谷安弘、荻田恵子、小野芳樹、加藤幸子、桑原絹枝、斉藤定子、渋谷奎吾、鈴木クニ子、鈴木洋子、鈴木よし子、鈴木さん、高沢 毅、高城正雄、高城富子、竹内 克、竹上 茂、武見敏治、近久芳彦、千葉範子、伴野久美子、松川綾子、吉池一彦、吉池町子、吉水正子。世話人)山岸弘明、国分三男、小出惣治、高沢恒子、鷺津寛子、藪本ティ子

次回予告=7月は休会です

第14回=夏期講習会(8月11日13時30分=八幡公民館視聴覚室) 予告編は発行しません。詳細は平成14年後半のスケジュールを参照ください。



後楽園



後楽園の記念写真



牛込見付 ↑ ↓



筑土八幡宮 ↓

神楽坂 ↑



伝通院
千姫の墓

